



アリス病児保育通信

31号
2023年1月発行



「 インフルエンザについて 」



病棟医長 木野仁郎

COVID-19流行の先行きになかなか見通しがつきませんが、2020～2021年にかけて全くの低水準だったインフルエンザが今年は同時に流行するのではないかと心配されています。ということで今回はインフルエンザについてご紹介します。

インフルエンザはインフルエンザウイルスA型とB型が流行の原因となる、急性の呼吸器感染症です。主に咳やくしゃみ、会話などから発生する飛沫で感染します。

インフルエンザについての日本での最初の記載はなんと平安時代まで遡り「咳逆（しおぶき）」と呼ばれていたそうです。江戸時代においても流行した記録が残っており、幕末になりようやくインフルエンザと名前がもたらされました。その頃は当時の社会情勢をもじった名前が色々つけられており、例として薩摩や琉球から広がったと思われることから「薩摩風」や「琉球風」、ペリー来航にちなんで「アメリカ風」などがあります。近年でも一昔前まではただの風邪（＝感冒）との区別をつけるために、インフルエンザを「流行性感冒」とし、略して「流感」とも呼ばれていました。



最近「ウィズコロナ」「ポストコロナ」と呼ばれるようにCOVID-19とうまく付き合っていこうという流れになってきています。国境を越えた人の移動が再開され、これをきっかけに国内にインフルエンザが持ち込まれれば、大きな流行につながる恐れがあります。2022年12月初頭の現在はまだ散発する程度で、今後どのようにインフルエンザの流行がはじまり、広がっていくか予想は難しいですが、一般的にオーストラリアなど南半球の流行と似たようなパターンをたどると予測されています。オーストラリアでは今年は過去5年間の平均を上回ってA型インフルエンザが流行しているとのことで、日本においても注意が必要です。

インフルエンザワクチンは、ウイルスの感染や発症そのものを完全に防御できるものではありませんが、重症化や肺炎や脳症などの合併症を予防する効果が明らかにされています。COVID-19との同時流行により各医療機関が再度逼迫する恐れもあるため、ワクチン接種を行い感染予防に努めていきましょう。





予防接種を受けていますか？



予防接種とは？

病気に対する免疫をつけたり、免疫（抗体力）を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。ワクチンを接種した方が病気にかかることを予防したり、人に感染させてしまうことで病気がまん延してしまうのを防ぐことを主な目的としています。また、病気にかかったとしても、ワクチンを接種していた方は重い症状になることを防げる場合があります。

接種後の注意点とは？

- 急激な副反応は接種後30分以内におこることが多いため
病院内で様子観察をしましょう
- 経口ワクチンの場合は接種前後の30分は飲食、授乳を控えましょう
- 激しい運動は避け、注射した部位は清潔に保ちましょう
- 入浴は、接種後一時間を経過していれば問題はありません
注射した部位をこする行為は控えましょう
※発熱した場合は、入浴を控えましょう



副反応とは？

ワクチンの接種により、副反応（副作用）が起きることがあります。多くは発熱、注射した部分の腫れ・痛み、発疹、下痢、吐き気などが症状です。ごくまれに重いアレルギーなど、重症の副反応が起きることがあります。**高熱が出る、吐き気が治まらない、注射部位が腫れて痛いなどの症状が出た場合には、医療機関を受診しましょう**



何か分からないことがあれば、いつでもご相談ください
当院の予防接種外来に関して詳しくは、ホームページをご覧ください

事前登録をおすすめします

アリス病児保育室 登録受付時間

平日 10:00~11:00
12:30~15:00
土 10:00~12:00

**※母子手帳持参のうえ
お越しください**



病児・病後児合同登録会



日時：2023年2月25日（土曜日）
場所：大阪旭こども病院 キンダーホープ
参加施設：病後児保育室ケアルーム菜すな（鶴見区）
すみれ病院すみれこどもケアルーム（城東区）
病後児ルームひまわり（都島区）
大阪旭こども病院アリス病児保育室（旭区）

※事前予約が必要となります

詳細はアリス病児保育室までお問い合わせください



大阪旭こども病院 アリス病児保育室

〒535-0022 大阪市旭区新森4-13-17

TEL：06-6952-4561

